

年号：1699年  
月日：8月（9月）  
災害名：大洪水の概要

### 本明川位置図



出典：国土地理院

### 【元禄 12 年 9 月洪水の概要】

- ・元禄 12 年の 8 月 11 日から降り出した豪雨により同月 13 日に大洪水が発生した。この記載が旧暦であるため、今でいうと 9 月下旬に発生したものである。
- ・この水害は昭和 32 年 7 月の大水害と並んで最も被害の大きい洪水とされ、多数の溺死者と田畑、家屋を洗い流すほどの甚大な被害をもたらした。

#### ▼元禄 12 年 9 月洪水による被災状況

溺死者	487 名
人家の流出	甚大
田畑の流失・埋没、崩壊	570 町余り 3,930 石

### 【元禄 12 年 9 月洪水の被災状況の記録】

- ・災害から 1 週間後の 8 月 21 日（旧暦）、佐賀から被害状況の視察にきた見分使との会談の記録

#### ■見分使との会談の記録

「1. 今度、洪水にて相果候者、男女 487 名皆禅宗、浄土宗、一向宗、右三宗の者にて御座候。右三ヶ寺にて豊前より品付け候事。

1. 今度、洪水に逢ひ候家 97 籠介抱の儀。自分より申付候儀、其上、作事料の竹木、立山より差出し取らせ申候事。

1. 生残り候町人 300 籠会、自分に介抱手に及び申さず候。近年迷惑ながら当分飯米、家屋迄の儀、御上より御介抱仰せつけられ候様にありたく奉存候。竹木は自分立木より差出し可申候。但竹の儀口達。

1. 今度、流れ残り難儀に及び候者共へ、早速より飯米取らせ申候。不足に付で相談致し候処に置米差出され候故、弥よ介抱申付け候事。

1. 当秋米出来申候間、今 150 石程置米より差出され下さる可く候。家来、借又町人共飯米取らせ候へば、最前の百石にては不足に付て御相談仕候事」

出典：長崎工事 五十年のあゆみ [建設省 長崎工事事務所（昭和 57 年 3 月）]

### 【元禄 12 年 9 月洪水の史跡：大雄寺 五百羅漢】

- ・岩壁に刻まれた羅漢像は元禄 12 年（1699 年）の本明川大洪水（犠牲者 487 名）、翌 13 年の大干ばつを契機に犠牲者の弔いと災害除難を悲願して、時の領主諫早家第 7 代茂晴公の発願によるものと伝えられる。
- ・岸壁には羅漢像や如来像など五百数体が刻まれている。

（現地の説明資料「五百羅漢像の由来」より抜粋）



▲大雄寺 五百羅漢の位置（長崎県諫早市富川町）



▲五百羅漢像



▲改修工事の状況

令和 3 年 3 月 2 日撮影





▲大雄寺の五百羅漢像（石碑）



▲大雄寺の五百羅漢像（説明パネル）

令和3年3月2日撮影

■大雄寺の五百羅漢像（石碑の説明文より）

元禄12（1699）年8月13日、本明川の大洪水により諫早領は死者487名、稲3930石が減収という大きな被害を受け、翌年は逆に大干害で田畑は荒れ、人々は2年続きの災害のために苦しみ、領内には食物に飢える人が多く出ました。

このため、諫早家第7代茂晴公は、災害による犠牲者の冥福を祈り、また今後の災害を除くため、ここ水源の地・富川峡谷の岸壁に五百羅漢像を刻むことを発願しました。

長崎・大村・島原などの寄進を受け、元禄14（1701）年に製作にとりかかり、宝永6（1709）年に完成しました。

下絵は神代村常春寺の僧志元、彫刻は矢上村の石工鎌山甚兵衛、田結村の石工森与四衛門等によって行われました。

磨崖仏としては、県内随一のものであり、諫早の水害史を物語る資料として大変貴重なものです。

（平成5年3月建 長崎県教育委員会、諫早市教育委員会）

### ▼本明川水系既往洪水の概要

洪水発生年月	洪水被害の概要	
寛永末年 (年代不詳)	1624年～ 1643年	本明川大洪水のため人家、耕地に被害。馬の鞍坂(天満町、円清田井原東側の丘)で手を洗うことができたと伝えられている。慶厳寺に溺死者のための供養碑がある。
元禄12年8月	1699年	本明川大洪水のため、溺死者487人。その他人家の流失、田畑の荒廃等の被害甚大。損失3,930石(この水害の供養のため、領主諫早茂晴が本明川の富川峡の巨岩に五百羅漢を作らせた。宝永6年(1709年)完成)
正徳元年	1711年	慶厳寺に溺死者供養塔があるが、詳細は不明。
文化7年6月	1810年	不意の大洪水で本明川唯一の石橋が流失。元禄12年の洪水と同じ程度と想定される。(この洪水を契機に眼鏡橋がつくられる。天保9年(1838年)に起工、天保10年に完成した。)
文化9年6月	1812年	大洪水により、市中の最高床上5尺5寸。流家、半倒壊多数。橋流失、堤防決壊、田畑水損等の被害甚大。
明治44年9月	1911年	豪雨により、諫早、大村で死者11名、行方不明者2名、家屋全・半壊52戸、破損275戸、流失16戸、床上浸水370戸、床下浸水253戸、その他堤防、道路、橋、田畑の被害多し。
大正3年8月	1914年	氾濫面積285町、負傷者3名、堤防決壊273ヶ所等の被害を受けた。
大正11年9月	1922年	豪雨(前線)により、諫早の雨量502mm(3日～9日)。被害の状況は不明。
昭和2年9月	1927年	暴風雨(台風)により、本明川が氾濫し諫早は泥海一大修羅場と化す。北高来郡の被害は死者16名、行方不明者1名、住家の全・半壊274戸、流失(一部流失も含む)66戸、住家浸水2,346戸等の被害を受ける。
昭和5年7月	1930年	暴風雨(台風)により、長崎県下で死者47名、行方不明者33名、諫早では、真崎、有喜、本野、小栗小学校の校舎倒壊(洪水:風水害年表)
昭和23年9月	1948年	豪雨(低気圧)により、本明川が氾濫。長崎県下の被害は、死者39名、行方不明79名、家屋の全・半壊99戸、流失64戸、家屋の浸水5,973戸等であった。
昭和24年8月	1949年	暴風雨(ジュディス台風)により、北諫早の雨量(15～17日)320mm。諫早市*の家屋浸水700戸、列車不通。また、海水浸水で農作物の被害甚大であった。
昭和27年7月	1952年	諫早市*で堤防決壊1箇所、家屋浸水118世帯、水稻冠水150町歩。
昭和27年9月	1952年	諫早市*で家屋全半壊3戸、床上浸水88戸、水田冠水146町歩、堤防決壊13箇所。
昭和28年6月	1953年	諫早市*で死者2名、床下浸水92戸、田畑冠水265町歩。
昭和28年7月	1953年	諫早市*で死者2名、家屋全壊2戸、床下浸水92戸、田畑冠水475町歩等の被害を受けた。
昭和29年6月	1954年	諫早市*で床上浸水2戸、床下浸水304戸、田畑冠水914町歩等の被害を受けた。
昭和30年4月	1955年	豪雨(前線)により、諫早市*で床上浸水24戸、床下浸水377戸、田畑の流失・埋没21.5町等の被害を受けた。
昭和31年8月	1956年	暴風雨(台風)により、諫早市*で死者4名、住家全壊86戸、半壊145戸、水田冠水120町等の被害を受けた。
昭和32年7月 (諫早大水害)	1957年	豪雨(梅雨)により、諫早市*で死者494名、行方不明者45名、負傷者1,476名、住家の全壊・流失727戸、半壊575戸、一部破損919戸、床上浸水2,734戸、床下浸水675戸、田畑の流失・埋没、崩壊805町等の甚大な被害を受けた。
昭和37年7月	1962年	豪雨(梅雨)により、本明川流域で負傷者14名、家屋の全壊流失62戸、半壊25戸、床上浸水2,262戸、床下浸水8,058戸の被害を受けた。
昭和57年7月 (長崎大水害)	1982年	豪雨(梅雨)により、本明川流域で死者3名、負傷者1名、家屋の全壊2戸、半壊11戸、床上浸水951戸、床下浸水1,457戸の被害を受けた。
平成11年7月	1999年	豪雨(梅雨)により、本明川流域で家屋の全壊1戸、半壊1戸、床上浸水240戸、床下浸水471戸の被害を受けた。
平成23年8月	2011年	豪雨(前線)により、本明川流域で家屋の床上浸水5戸、床下浸水24戸の被害を受けた。

注) このページの「市町名\*」は、平成17年3月1日に行われた県央地区1市5町の合併前の名称にて整理しています。

出典：本明川水系河川整備計画(変更)(平成28年3月)[国土交通省九州地方整備局長崎河川国道事務所]